

袴田事件：

再審を実現し、袴田さんの苦しみに終止符を！



えん罪の強い可能性がありながらも、死刑が確定している袴田巖さんは、現在 77 才になります。逮捕以来、47 年もの間拘禁され、現在は深刻な精神状態にあるとも言われています。

もはや、一刻の猶予もありません。昨年には、無実を裏づける新証拠も示され、袴田事件は今、大きなヤマ場を迎えています。弁護側・検察側による DNA 鑑定の結果、死刑判決の土台を揺るがす証拠が示されており、12月2日までに、双方が最後の意見を述べるところまで来ています。早ければ、来年3月末までに再審開始の決定がなされる可能性があります。再審が進められ袴田さんの汚名を晴らすためには、あなたの力が必要です。袴田さんの再審を求めるアクションに、今すぐ参加をお願いします。アクションの参加および事件の詳細は、次の URL にお越しください。

https://www.amnesty.or.jp/get-involved/action/hakamada_201310.html

カルパナ・チャクマさんの事件にアクションを！

バングラディッシュのパハリ族の活動家であるカルパナ・チャクマさんが、チッタゴン丘陵地帯で失踪してから今年で 17 年が経ちます。

1996 年、当時 23 歳だったチャクマさんは自宅で拉致され、行方不明になりました。この強制失踪の背景には、パハリ族を代表して議会選挙に立候補した候補者を支持したことが絡んでいると言われています。

2013 年の 1 月、裁判所はこの捜査に関する「最終報告書」を不採用としました。その後、管轄する警察本部長が、こ

の事件の捜査を裁判所から命じられ、カルパナさんの救出に向けて全力を尽くしていると説明しました。捜査報告書の期限は今年の 3 月でしたが、「実務上の問題」で提出が遅れ、さらに再設定期限の 5 月になっても提出されませんでした。

警察本部長は、要員不足で捜査を進めることが難しく、また事件発生後、時間が経ちすぎており、捜査が難航していると釈明しました。今もって報告書は提出されていません。



この事件の捜査を進め、カルパナさんを救うために、バングラディッシュの内務大臣宛に、手紙または E メールを送ってください。内務大臣宛の手紙の見本を以下に掲載します。

Muhiuddin Khan Alamgir
Ministry of Home Affairs
H-16, R-25, B-A, Banani
Dhaka-1213, Bangladesh

Dear Home Minister,

It has been seventeen years since the disappearance of Pahari activist, Kalpana Chakma, from the Chittagong Hill Tracts. In 1996, at 23 years old, she was abducted from her home in Lallyagona village, Baghaichari, Rangamati district. Kalpana Chakma has never been found.

I urge you to:

- Provide the Rangmati District police the resources needed to carry out the re-investigation of Kalpana Chakma's disappearance as mandated by the court order.
- Provide protection to investigators and witnesses in accordance with their wishes so there is no risk of reprisal for people giving evidence.
- Ensure that a thorough and independent re-investigation of Kalpana Chakma's case is conducted, which includes the interrogation of the three main suspects, and that any perpetrators are brought to justice

Yours Sincerely,

(あなたの署名)

グッドニュース ～進捗のご報告～

〔バーレーン〕

バーレーンの妊婦、ナディア・アリ・ヨーセフ・サレーさん(37才)が10月2日、保釈されました。彼女は5月30日以来、起訴も裁判もないまま拘禁されていました。

ナディアさんは今年5月29日、バーレーン北西部を夫と母親と共に車で移動していたところ、検問所で止められ、夫がいきなり逮捕されたのです。彼女が逮捕の理由の説明を要求すると、警官に大声で罵りかえされたそうです。さらに、他の警官に身分証明書を取り上げられ、後日首都マナマのアル・ブダヤ警察署に来るように命じられました。彼女が警察署に行くと、3人の婦人警察官が彼女を後ろ手に縛り、トイレに連れて行って殴ったといいます。その後、バーレーン中央部の町イッサの女性用拘禁施設に送られました。裁判所に3回も連れて行かれ、その度に捜査は延ばされるばかりで、結局勾留期間は1カ月以上にも及んだのです。しかし今回、高等裁判所は医療上の理由で釈放を命じました。

ナディアさんには3才の息子がおり、当時、妊娠8カ月でした。9月15日、彼女は警察の監視のもと、マナマのアル・サルマニヤ医療施設に収容されました。家族によると、メディアさんは精神上の問題を抱えており、勾留される前はマナマの精神科病院で治療を受けていました。その治療が逮捕によって中断されていたのです。また、めまいと意識消失にも苦しんでいました。警察の説明では、夫のアブド・アリ・イブラヒム・ヨーセフ・サレーさんは、金銭上の不正を働いた容疑で、ジョー刑務所で6カ月の刑期を務めています。

ナディアさんの釈放に向けた皆様のご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

〔エジプト〕

カナダ国籍のタレク・ロウバニさんとジョン・グレイスンさんが10月5日に釈放されました。彼らは、50日の間、拘束状態にありました。

タレクさんとジョンさんはカナダに出発する前日、カイロ国際空港の職員に「搭乗拒否リストに名前が載っている」という理由で飛行機に乗ることを阻止されました。エジプトの外務省は、タレクさんたちが暴力的抗議行動に関わっているというコメントを発表しており、検察はそれに基づいて起訴していました。しかし、最終的に取り下げたことで、彼らはようやく10月11日にカナダに帰国することができました。

〔ウズベキスタン〕

フリーランスの記者、サーゲイ・ヌーモフさん(50歳)が10月3日、12日間の行政拘禁刑を満了して釈放されました。

ウズベキスタンは、国の主要な産業である綿の収穫などに子どもを含めた労働力の強制的徴用を行っており、人権活動家やジャーナリストから非難を受けてきました。そのジャーナリストのひとりがヌーモフさんでした。最近も、綿花を収穫する労働者を調査し、彼がその不当性を厳しく非難する記事を書いたときも、当局はその記事が出るのを阻止しようと動きまわりました。国際労働機関(ILO)の査察担当者との面談にも横やりが入っており、当局は、ウズベキスタンの強制労働の事実が発覚し、世界から注目を浴びることに非常に神経をとがらせていました。

ヌーモフさんは9月21日に突然自宅で拘束され、「社会秩序を乱す行為」のために、12日間の行政拘禁を受けていました。これを受け、アムネスティをはじめとする人権団体は釈放を要求するキャンペーンを展開しました。ヌーモフさんはメディアを通じて、釈放のために行動してくれたすべての人びとに感謝したい、と話してくれました。

UA ニュース

発行:アムネスティ・インターナショナル日本
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 2-12-14 晴花ビル 7F
TEL:03-3518-6777 FAX:03-3518-6778
E-mail:uaoffice@amnesty.or.jp

UA 年会費 3000 円
郵便振替 00120-9-133251
加入者名 公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本